第２章　研究開発の内容

２―１　防災安全科の創設

（１）東日本大震災をきっかけとした復興学習

２０１１年３月１１日に発生した東日本大震災により，仙台市若林区にある本校は大きな被害を受けた。当時，４年生が学んでいたプレハブ校舎は使用不可となって取り壊され，体育館はその後の余震によって危険と判断されて使用できない状況が続いた。東部有料道路が壁となったために学校にまで津波は来なかったものの，本校学区である道路東側の地域にまで津波が押し寄せた。そのため，家に住めなくなったり水田が塩害のため作付けができなかったりするなど，震災は地域に甚大な被害をもたらした。

震災直後，学区内及び沿岸部に位置する荒浜地区の方々が学校に避難されてきて，本校は大規模な避難所と化した。学校再開のめどが立たない状態がしばらく続き，４月１９日，約２週間遅れで平成２３年度１学期がスタートした。避難所生活を経験した子，仮設住宅で暮らすようになった子など，状況は様々であるが，震災による児童への影響は甚大なものだった。

そこで，本校では，まず，通常の学校生活を取り戻して児童を元気にさせることから始め，安心安全な学校づくりを目指すとともに，震災を教訓とした教育活動を展開していくこととした。そのために，校内研究において，生活や総合的な学習の時間を中心とした復興学習に取り組むことにした。

復興学習では，震災の影響を受けた地域のために何ができるかを考えさせ，広く外部の方々とつながりをもちながら復興につながる学習活動を実践することにより，未来に向けて希望を持ちながらたくましく生きようとする児童の育成を目指した。今まで生活や総合的な学習の時間で展開してきた地域学習に下記の新たな視点を加味して，実践を行った。

①　たくましく生きる力を育てる学習

たくましく生きる力育成検討会議（仙台市教育委員会）で示された，３つの構成要素（心と態度，人間関係形成力，ものの見方考え方）を育てたい資質・能力とし，具体的な学習活動が何に結びつくかを押さえていく。

②　未来志向型の学習

震災の記憶を思い出させて教訓にするだけでなく，震災の経験を生かしつつもこれからの社会や自分の生き方を考えていく学習を展開する。

③　外部連携による学習プログラム

専門的な知識をただ享受するだけでなく，現実社会とのつながりをもった「生きた学習」を行っていく。

（２）復興学習の展開

学年	復興学習の視点	実践事例
１年	①自分ができるようになったことを振り返り，表現する活動。きちんとしたあいさつをすること。 ②夢のある未来の七郷の町を描き，鑑賞し合うことで，お互いのよさを認め合う活動。 ③仮設住宅の方々との交流。イグネ見学。	○生活「むかしからのあそびをしてみよう」（仮設住宅の皆さんとの交流） 仮設住宅の人々の存在を知り，昔遊びが得意なお年寄りに，遊びを教えてもらうための依頼の手紙を書いた。実際に仮設住宅を訪問し，各種の昔遊びを教えてもらいながら交流した。
２年	①工夫しておもちゃを作ったり出店の運営をしたりすることで友達や下級生と遊ぶ活動。 ②今までの自分の成長を振り返り，自分はどんな３年生になりたいのかを考える活動。 ③公共施設や地域の商店などでインタビュー活動を行い，利用している人の思いや願いを考えながらまとめる活動。	○生活「どきどきわくわくたんけんたい」 地域の公共施設や医院・商店等の施設を見学し，生活への恩恵や便利さを調べた。大震災の苦労もインタビューした。探検で見つけた町のすてきな場所・人・ものを保護者に対して発表した。お世話になった方々に感謝のメッセージを書き届けた。
３年	①震災への影響を知り，復興に向けての頑張りを聞き取りして，自身の姿と重ねて共感する。 ②復興に向けてみんなが努力する姿と自分自身の姿を重ねて，改めて自分たちの元気な姿を再確認し，これまでの支援に感謝の気持ちを表す。 ③七郷地域の方，仙台港湾事務所の方，お店の方，仙台市内のホテルの方などとの交流。	○総合的な学習の時間「イグネのある七郷のくらし～ありがとう！感謝の気持ちと笑顔を届けよう～」 仙台港湾事務所の方により，震災時の仙台港の様子やその後の復興に向けての活動について話していただき，聞き取りをした。七郷の自然（イグネ）の元気と自分たちの元気を形（作品）にして，これまで支援して支えてくれた多くの人に感謝の気持ちを伝えた。
４年	①体験活動に積極的に取り組む。（総合全般）防災の視点を考える。（社会「くらしの安全」） ②未来の自分たちの姿・地域の姿を想像する活動（総合：「元気」に「感謝」～２分の１成人式） ③ゲストティーチャー，他校との交流（総合：七郷・宮城の魅力を探ろう）	○総合的な学習の時間「七郷・宮城の魅力を探ろう」 七郷を知る活動として，グループで地域探検を行った。七郷地区の歴史について話を聞いた。七郷について調べたことを交流のあった学校に送り，七郷の歴史や防災への取組などを紹介した。
５年	①多くの人との関わりを重視し，皆に支えられながら生活できていると実感できる学習活動。 ②これからの七郷を防災や環境の観点で見直し，よりよくしようと考える学習活動。 ③地域の方々，東北工業大学，NPO の協力。	○総合的な学習の時間「復興絵馬を作って笑顔になろう」 絵馬とは何かのレクチャー後，復興への願いをこめた絵馬のデザインを考えた。ダンボールを使って絵馬の土台を作成した。出来上がった絵馬を見合い，互いの思いや願いを共有した。
６年	①地域をフィールドとした調査体験活動。個人のテーマ設定と探究型の学習（思考判断表現） ②未来の七郷はどうあるべきかを考えたまちを創造する学習活動を展開する。 ③大学，NPO，行政，民間などとの連携，地域の協力，写真展の開催，まちづくり発表会と模型の展示。	○総合的な学習の時間「未来の七郷まちづくり」 人と環境の２つの視点で今のまちとこれからできる予定の場所を歩いてみた。そこから，未来に残したいもの，変えていきたいことを考えていった。８年後に２０才になったときの七郷の姿を模型に表現していった。持続可能な社会を共通テーマとして，クラスごとに４つのまちの模型を製作し，提案した。
特別支援	①地域で学んだことを自分の生活に積極的に生かしていく。 ②具体的な場面で実際的な活動をしながら課題を解決していく。 ③地域の農家の方，ＪＡ仙台七郷支店，ＪＡバンクアグリ発行の教材利用，調べ学習の掲示。	○生活単元「学校の近くの農家を見学させてもらおう」 ビニールハウスの中を見学し，花以外のものも栽培していることを知って驚いていた。 ○生活単元「サツマイモで作ろう」 ２種類のサツマイモを収穫し，材料の買い物を行い，調理に取り組んだ。

（３）復興学習から防災教育へ

震災以後，本校では独自に生活や総合的な学習の時間を中心とする復興学習に取り組ん

できた。しかし，震災を学校で体験した児童の割合は年々減少し，いずれ全員が卒業するとともに，数年後には震災の記憶そのものが薄い児童が入学してくる。震災の教訓や体験を風化させず,今後の教育活動の中で継承していくためには,児童の直接体験に拠らない，より汎用性や継続可能性のある防災教育の具体的な指導法を確立していく必要がある。そのために，まず，学校教育活動全般を防災の観点から広く見直し，関連付けて，新たな視点で再構築するとともに，教科，領域の内容の一部を統合した「防災安全科」を全学年に創設することとした。

防災安全科においては，災害安全にとどまらず，交通安全や生活安全の内容も含めて，危険の察知や回避，他の人や社会の安全に貢献する資質・能力を育むこと等を目標とする総合的な安全教育に取り組むようにする。